

# 筑波大の留学生 名古屋港を見学

## 中部地整

中部地方整備局名古屋港湾事務所によると、筑波大学の経済・公共政策プログラムによる外国人留学生15人が7月25日、同港を訪問した。飛鳥埠頭のコンテナターミナル（CT）内や港湾施設を視察し、港の概略につい



ても学んだ。発展途上の母国では官僚職に就く留学生らは、総取扱貨物量日本一の名古屋港の高度な技術力や手法に感心の表情を見せていた。

今回の見学は、世界銀行とアジア開発銀行（ADB）、日本政府が出資した奨学金によって運営される修士課程プログラムの一環として実施。日本

の主要港の見学を通じて港湾分野の高度な技術力や知識を習得し、母国での政策立案に生かす狙いがある。

留学生はバングラデシュ、エチオピア、ウズベキスタン、ナイジェリアなど、主にアジア・アフリカ地域から来日した。いずれも自国で国の政策立案などに携わる。

名古屋港では、まず港内を一望できる船舶通航情報センターの展望台で港の全容を眺め、中部地整の担当者が同港の概略や役割を説明した。

その後、飛鳥埠頭南側CT（TCB）を見学。

ターミナル内では荷役機器などの自動化設備や荷役作業を巡覧し、遠隔操作についても実物を見ながら詳しく学んだ。留学生らは、日本の港湾分野の高度な技術やハンドリングに驚きと感心の表情で熱心に見入り、担当者に質問していた。